道退教 上川・旭川 支部ニュース

2013年2月25日（火）発行　NO105

発行責任者　支部長　田代和義　　事務局　梁川勝利

〈☎/F　0166-84-3718　〒078-1315　上川郡当麻町５条東４丁目15-1〉

２月も末になると寒さは変わらずとも陽差しがぐんと眩しくなりました。冬至から２時間も太陽の南中高度が高くなり、それに残雪がしっかりあるからでしょうか。今、房総など黒潮の北上地点へ行くと早春の菜の花はじめストックや金魚草、ポピーやキンセンカなどが花盛りです。

この季節になると、房総フラワーラインを旅した時、『食うものも事欠く戦時中に花栽培とはけしからん』と軍から禁止令が出された老婆の話を「野島崎灯台」入り口で聞いた20年前を思い出します。昨今の国会での強硬な言動を見ると、目を覆いたくなるほど安倍さんたちは自信たっぷりの様子。どうしてあのような思想になるのか。何がそうさせているのか。ヒューマンな精神は、何処に行ってしまったのだろうかと不思議でなりません。

昨今の情勢は、軍の禁止命令が花栽培にまで及びかねないことを教えているようです。そんな話も含めて、総会ではみなさんと元気に顔を突き合わせ、語り合いたいものです。今40名の会員がいますが、毎回一堂に会せるのは10～15名です。様々な条件をクリアするのは難しいでしょうが、今からぜひ予定に入れて下さい。

上川・旭川支部総会開きます

日　時　4月25(木)～26(金)　受付　16;00～
　　総会　17;00～　交流会18;00～
場　所　湯遊ぴっぷ（☎0166-85-4700）比布町北7線14
参加費　宿泊10,000円　　交流会だけ参加　5,000円
　　＊年会費3,000円も集めます
締　切　4月10日　同封の返信ハガキにて
　　＊全員互助会利用番号記載をお願いします！

会員拡大の訴えをしましょう

今年退職される知人友人、または、すでに北退教に加入の方、そして、どこにも未加入の方にぜひ働きかけをお願いします。呼びかけ文書が必要な方は、事務局に一報ください。

２月14日、今年度２回目の役員会を開きました。場所は旭川市民交流センターCoCoDeです。8名の役員中、仕事の方を除いて7名が集まりました。

約2時間、「総会について」～日時・場所・事業内容・財政・会の趣旨やあり方・存在意義、そして、病気と闘いながら会の存在に期待している声等々、有意義な話し合いが出来ました。また、事務局を担当した者がぶつかる問題として、約束期限や発信に対する返信の数についての話も出ました。年に1～2度集まって飲み食いして近況を語り合い、元気でいることの確認ができるだけでもいいなど、お互い元気を貰い合う場にもなっていることをつくづく感じました。

退職後、家族の介護に追われたり、孫の世話で時間がとられ自由がきかなかったり、出来なかった趣味などで楽しんだり、はたまた民主的な取り組みや、日々活躍している話など上げればきりがないほどでした。あるとき、自身が身体の機能低下とか病魔に、という現象を迎えて足がなかなか外に向かないということも起きてきます。生身の体なので、それは誰もが通らなければならない道との声もありました。ほんとに本当に同感です。（暗い話になりごめんなさい！）

筆者も94歳の義母と暮らし始めて約1年。精神的肉体的に、何をしてあげれば楽しく暮らせるかと頭をひねり、ご飯が飲み込めないことがあるので、その機能訓練や頭への刺激のために、愉快な話しかけをたくさん行い、階段の昇り降りや歩行のために手だけを貸して、出来るだけ自立した生活が送れるように心がけています。今のところ、やること全部プラスに働いていて、「人間、生涯発展途上にある」と確信しているところです。

何はともあれ、縦長な管内の地理的状況から、広範囲に及ぶ会員が、会の集まりに出かけるだけでも大きな壁です。体調が関わり、時間もお金もかかるので、有意義な集まりや繋がりにならなければ意味がありません。総会や交流会が、できるだけ「学び、力が湧くひと時」になればと願っています。

北星中学校第十二回生同期会

大浦眞理子

私の中学生活は、一年は矢越小中学校、二年は木古内中学校、三年は、北星中学校と一年間毎に転校した面白い体験をしている。卒業は北星中。

私がいた頃の北星中は、ＮＨＫ合唱コンクール全国一位という輝かしい成績を残した時代です。三年八組のわが担任は、音楽担当の池山先生でした。今は八十三歳になり、でも、お元気で同期会に出席下さり、皆大喜びでした。先生二名、生徒三十二名の出席でした。

「中学時代は、朝刊配達、夕刊配達、牛乳配達と家計を支えながら学校へ行ったなあ。」という話や、介護、病気の苦労話、子供のこと、孫のこと、「でもね、これから恋をしよう！まだ仕事してます！」と、驚くほど元気で、楽しい時間を過しました。池山政一先生の指揮で皆で校歌を歌い、感無量でした。二次会はカラオケ・・・。この日（二月二日）午後十一時半頃の地震には全く気が付かなかったのは、当然ながら酔っ払い天国だったからです。

陶芸を始めました

美瑛町　　小北敏明

現職の時に上川教組主催の夏の学習会で『陶芸体験』というのがあり、参加しました。これがとってもいい具合に出来上がり、興味を持つきっかけになりました。そして、美馬牛小学校の給食のＳさんはもう長いこと陶芸をやっている方ですが、Ｓさんから「おもしろいですよ、先生もやりませんか？」というお誘いを受けて意が決まり、退職を機に「陶芸」をやるという約束をした。これが私が陶芸を始めるきっかけです。

新しいことを始めると、新しい人との出会いがあります。講師の先生は二人ですが、どちらもこの道３０年以上というベテランの方です。「まるっきり初めてかい？」「何度か作ったことがあります。」「何を作りたい？」「ろくろを使って作ってみたいと思います。」「じゃあそうしよう。」と、こんなことでスタートしました。まずは粘土の練り方から。ていねいな説明を受けながらやるんですが、その一つ一つが（なるほど）と思うことばかり。（これは、いっぺんには覚えきれないな）と思い、「陶芸ノート」を作り、教えてもらったことを家に帰ってから書き留めておくようにしました。（もちろん証拠写真もつけて）それから５か月後、最初にできあがった作品（コーヒーカップ）は壁も底も厚く、手に持つとやけに重い。

使いにくいけれど、とにかく初めての作品ということで、出来上がったときは「おお！やったね。これが自作第一号だ！」と感動。（じつはこれ、半分以上先生に作っていただいたもの）

昨年１１月の出展作

普段使う食器を自分で作ったものにすると食事やティータイムも違った楽しさがあるし、これまでは何気なく見ていたものでも（これはどんな粘土でどうやって作ったんだろう）（この色はいいなぁ）なんて思いながら手に取って見たりするようになりました。

陶芸も３年目に入り、これまでに２０個ほど作ってきましたが、（これはよくできたな）と思うものはまだまだ作れていません。先生は「５０も１００も作らないと満足するものはできないよ。」と。また、会の先輩は「あんたは覚えがいいからすぐにうまくなるよ」と励ましてくれたり。粘土に向かっているときは時間の経つのを忘れてしまいます。今は、まずは『思うような形のものが作れるように』を目指して取り組んでいます。

いやぁ、粘土いじりはハマリますよ。あなたもやってみませんか！

四国八十八か所遍路旅
「おせったい」＆「おかげさま」

斉藤　芳子

四国お遍路旅をしたいと思ったのは、学生時代。四国出身の先生から「一度は遍路旅をしてみては？」と言われたからだ。その後、仕事を辞めたら歩いてみようと思ったが、とても無理だと分かり、今回、タクシーに変更して実施できた。行くまでは、ただ青春の 1 ページを終了させる気持だった。帰ったら芳子さん変わるのではと、ちょっと期待した人もいたようだが、私自身は何の変化もなかったような・・・？

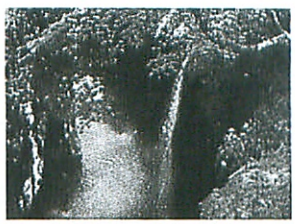
行ってみて一番心に残ったのは、一緒に行った 15 人のツアーの人をはじめ四国の人たちから受けた物心両面の「せったい」である。旅の初日からツアーの中で、忘れ物・置き忘れ・具合が悪くなったなど、いろいろトラブルが発生したが、それぞれ、先達さんや、お互いの思いやりで乗り切ることが出来た。そして、日が経つにつれて和気藹々とした良い雰囲気で終了できた。また、毎日の祈願で「おかげさまで」という感謝の気持ちが住み着いてくれた気がする。丈夫に生んでくれた父母へ、無事に仕事を終えることが出来た仕事仲間へと過去のことから、今、趣味で楽しませてもらっている仲間へ等、様々な人に。そして、トイレのお礼をはじめ数々のお守りと祈祷を受けた。

さて、私自身の変化だが、自分のことだけでなく相手の事を考えて話ができるようになったかな？頼まれたことを断る時は、丁寧に出来ない事情を話す。また、自分のできることは、できるだけ快く引き受ける等、少しは大人になったかも・・・???

ふりかえって

對馬榮見子

生まれたのは満州の大連市。引揚げてきてからは、高校時代まで宮崎の高千穂天孫降臨の地と言われる山奥の小さな村で過ごしました。



大学入学で上京したのが 1960 年安保の年。入学式の当日からビラがまかれ、田舎者の私は時代の波にのまれていきました。サークルとして選んだのが氷川下セツルメント。児童部に入って地域の活動に毎日を忙しく過ごしていました。国会議事堂へのデモにも幾度となく参加し、燃えていました。せっかく大学に入ったのに、勉強など二の次で、もっと何かを身につけておけばよかったと今になって反省しきりです。

セツルメントの中で 4 年間活動を共にしたのが、今の夫です。『男に従って北海道に行くなんて平等でない』と大学の友人からは批判されましたが、強引さに負けて北海道に渡ってきました。南国宮崎と北海道では、生活上もいろいろと違い、面白いこともたくさん経験させてもらいました。小学校の教師として、登別を皮切りに滝川、旭川の啓明小、東栄小と勤めて退職し現在に至っています。

最初の赴任校は、『赤いレンガの学校で赤い教育をしている』と周りから言われながらも生活指導の公開研を毎年していました。先輩たちから刺激を受け、鍛えられた九年間でした。ここで、二人の子供にも恵まれ、仲間で共同保育所も作り、思い出いっぱいの土地となりました。残り少ない人生ですが、この旭川の地でも沢山の思い出をつくりたいものです。